

和  
つ  
く  
得

の猛暑の影響により、本  
天の著、古賀正樹

A 受検品の包装・荷造り・量  
われるのか  
Q 検査はどのような手順で行  
われています。

粒⑤死米⑥着色粒⑦異種穀粒⑧  
異物があります。

マ油を作つたり、そのまま  
つてぶりかけにしているほか  
か、普及宣伝用にエゴマの香  
ばしさを生かした生ギヤラメ  
ルも作つてゐる。

協議会の会員は石上地区、伊部利一さん(56)は平年であれば11月初旬には出荷が終わりますが、今年の秋キャベツは夏の猛暑の影響で半月以上の出荷遅れとなっています」と話す。



エゴマ 特産化目指して搾油  
栽培仲間を増やしたい

五泉市 川上 政行さん

【五泉】「エゴマ油を飲み始めてから体調がいいです。エゴマを地域の特産品に育たいのです」と話す五泉市刈羽の「川上農園」の川上行政さん(59)は、妻とともに5年前からエゴマを栽培。住宅に作業場を増築して、エゴマ油などを生産・販売している。

工コマは、田植え後に種を播き、稻刈り後に収穫するため、水稲と作業時期が分かれることになる。2年ほどは肥料が必要なく、栽培管理も難しくない。しかし、収穫が遅れると実が落ち、汚れを落とす手洗い作業と、目の細かい網の上で乾燥させなくてはならない。

「個人栽培では生産量に  
界があります。地域の協力  
得てエゴマを特産品にして  
きたいです」と川上さんは  
す。  
(佐藤孝之)

プリリスト制度などが導入され、航空防除を中止した。現在は粒剤の個人散布が基幹防除となっており、高齢者の防除作業の負担は大きくなり、門の拡大を提案。08年に県農

**息欲**  
無人ヘリ防除  
の面積拡大と、  
地域住民の理解  
を深めるため、JA越後中央  
岩室支店主催の農業祭でヘリ  
2機を展示。デモフライトを

「抱負を話す。」  
（樺田和造）

「抱負を見守っていた。  
『担い手不足が進む中、グラナリー高畠が雇用の場を創  
出して、地域農業に貢献して  
いきたいです』と野水代表は

品には五東市産と表示して販売したいのですが、近隣市町村産を使用していくは難しいです。転作物としてエゴマを栽培する人を増やし、地元の工コマで通年の商品を作りたいです」と、川上さんは主張強大（青垣内）。